

特集の主旨

—平成時代の大災害を 令和の時代にどのように活かすか—

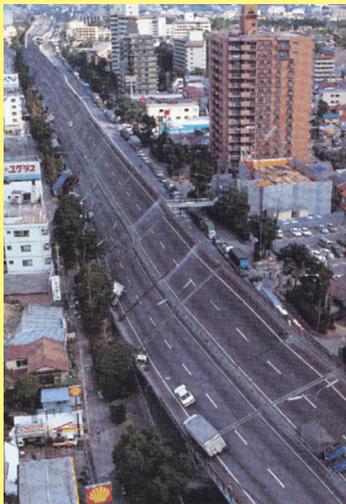
東京理科大学 理工学部 建築学科 教授 **ながの まさゆき** **永野 正行**

特集の主旨

約30年続いた平成の時代が終わり、5月に新しい時代・令和になりました。平成時代には、下の年表に示すように、2011年、東日本大震災を含む大地震、津波をはじめとする多くの大災害が発生しました。平成という穏やかな語感とは裏腹に「災害の時代」とも称さ

れます。前年の2018年は大地震、豪雨、大型台風等が多発した年であり、日本漢字能力検定協会の「今年の漢字」に「災」が選ばれるほどでした。

これらの災害を契機に、防災以外にも減災・免災、自助・共助・公助、レジリエンス、ビルド・バック・ベター等、さまざまな



1995年阪神・淡路大震災・高架橋倒壊



1995年阪神・淡路大震災・神戸木造倒壊



1995年阪神・淡路大震災・港湾液状化被害

発生年月	災害名 (数字は死者・行方不明者)	
1991. 6	雲仙普賢岳大噴火	43
1993. 1	北海道釧路沖地震 (M7.5)	2
1993. 7	北海道南西沖地震 (M7.8)	230
1995. 1	阪神・淡路大震災 (M7.3)	6437
2000.10	鳥取県西部地震 (M7.3)	0
2001. 3	芸予地震 (M6.7)	2
2001. 9	歌舞伎町ビル火災	44
2003. 9	十勝沖地震 (M8.0)	2
2004.10	新潟県中越地震 (M6.8)	68
2004.10	台風第23号災害	98
2006. 1	平成18年豪雪	152
2006.11	北海道佐呂間町竜巻災害	9
2007. 3	能登半島地震 (M6.9)	1
2007. 7	新潟県中越沖地震 (M6.8)	15
2008. 6	岩手・宮城内陸地震 (M7.2)	23



2011年東日本大震災・女川津波被害



2011年東日本大震災・南三陸町津波被害



2011年東日本大震災・浦安液状化被害

平成時代の災害年表

概念が発展し、この30年の間に広く議論されるようになりました。防災は世界レベルでも推進され、2015年国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）では、防災・レジリエンスは重要なテーマの一つとして位置づけられております。多数の学会が参加する「防災学術連合体」等も組織化され、専門の枠を超えて防災対策を強化する活動が進んでいます。令和の時代に入ったこの機会に、平成時代に発生した大災害を振り返り、新しい時代に向けた議論をすることは十分に意義があります。

本特集の構成

本特集では、「平成時代の大災害から学ぶ」として、1989年以降から2019年4月に至

る約30年間に国内で発生した大災害を通じ、そこから何を学ぶべきか、またどのように次の時代に活かせるかを、災害のタイプごとに解説します。ここで取り上げるのは地震災害、地盤災害、水害、風災害、火災、避難所であり、それぞれご専門の先生方より解説していただきます。

本学では2017年に理工学研究科内で横断型コース「防災リスク管理コース」が開設され、建築・土木などの分野を超えた研究プロジェクト、教育がスタートしています。本特集のように分野の垣根を取り払って防災を一通り取りまとめることにより、新しい時代の防災リスク管理を考えるうえで重要となる複合災害を解決する契機となるものと期待しております。

発生日	災害名（数字は死者・行方不明者）	死者・行方不明者
2009. 7	中国・九州北部豪雨・台風9号	63
2011. 3	東日本大震災（M9.0）	22233
2011. 8	台風第12号災害	96
2012. 5	つくば市竜巻災害	1
2012. 7	九州北部豪雨災害	33
2013.10	台風26号・伊豆大島土砂災害	43
2014. 8	8月豪雨・広島土砂災害	77
2015. 9	平成27年9月関東・東北豪雨	8
2016. 4	熊本地震（M7.3）	272
2016. 8	台風10号・岩泉町水害	29
2016.12	糸魚川大規模火災	0
2017. 7	九州北部豪雨災害	43
2018. 6	大阪府北部地震（M6.1）	6
2018. 6	西日本豪雨	232
2018. 9	北海道胆振東部地震（M6.7）	42



死者・行方不明者数は気象庁ホームページを参照